



10月23日は「化学の日」

「7月6日は何の日？」と聞かれて、「サラダ記念日」を思い浮かべる人は50代以上の方ではないでしょうか。「サラダ記念日」は歌人俵万智の歌集。1987年に出版されて280万部の大ベストセラーになり、その年の流行語大賞にも選ばれています。この歌集に集

録されている、『「この味がいいね」と君が言ったから 七月六日はサラダ記念日』は、この時代を生きた人なら誰もが知っていると言っても過言ではないでしょう。この短歌は、サラダの味付けを恋人に褒められた女性が、そのうれしさを記念日にして留めたいという想いを歌ったものですが、何気ない生活の一場面が若々しく爽やかな感性で歌われており、大きな反響を呼びました。当時、良いことがあると何でも「〇〇記念日」とするのは一種の社会現象になりました。

記念日とは、国家や企業、団体、個人にとって重要な出来事を忘れないために定められますが、特定のモノやコトの普及拡大、啓発の一環として定められる場合もあります。どちらの場合も、何故その日なのかには深い意味があります。

例えば、6月5日は「環境の日（世界環境デー）」ですが、これは1972年にストックホルムで国連人間環境会議（通称ストックホルム会議）が開催された日に因んでいます。

7月23日は「ふみの日」です。「手紙の楽しさ、手紙を受け取るうれしさを通じて文字文化を継承する一助となるように」と1979年に当時の郵政省が制定したものです。23日で「ふみ」は分かるのですが、何故7月なのか？ それは旧暦の7月を「文月」と言うことに因んでいます。

変わったところでは、2月17日の「天使のささやきの日」があります。これは、1978年に北海道幌加内町母子里で国内最低気温のマイナス41.2℃を記録したことに因んで地元の有志が制定したものです。では、なぜ「天使のささやきの日」なのかと言うと・・・。「天使のささやき」とは、マイナス20℃以下で空気中の水蒸気が凍ってできる氷の結晶「ダイヤモンドダスト」のことなんです。同町では、寒さゆえの自然現象の美しさを体験して貰うために、毎年この日に「天使のささやきを聴く集い」を開催しています。「最低気温の日」では、とてもこの地を訪れようと思いませんが、「天使のささやきの日」と言われるとロマンチックなイメージで、つい興味をそそられます。ネーミング一つで雪や寒さのマイナスイメージをうまく変換し、あわよくばイベントへの集客に結びつけようという意図が感じられます。しかし同時に、極寒の地に住む人たちの、「寒いけど素晴らしい所だよ」という地元愛も感じられる秀逸なネーミングです。

記念日の認定・登録を行なっている（一社）日本記念日協会によると、1,800件を超える記念日があるとのこと。あまたある記念日とその設定理由で見て行くのも面白いものです。

10月23日は「化学の日」

10月23日は「化学の日」です。日本化学工業協会、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進

協会の化学関連の4団体により、2013年に制定されています。それでは、何故10月23日を「化学の日」としたのでしょうか？

10月23日 ⇒ 1023 ⇒ 10^{23}

化学を学んだ人ならば、上の「 10^{23} 」でピンとくるはず。そう、アボガドロ定数です。アボガドロ定数とは、物質1モルを構成する粒子の個数を示す定数で、「 6.02×10^{23} 」と定められています。この「 10^{23} 」を取って10月23日とされているのです。

記念日には、それを定めた人の想いが籠められているものですが、受け取る側にとっても、「なるほど」と響くものがあります。モルの概念は化学を学ぶ上での必須項目であり、試験の際に絶対に覚えておかなければいけない数字が「 6.02×10^{23} 」でした。「 10^{23} 」とは何と途方もない数字だろう、いったいどうやって数えたのだろうと不思議に思ったものです。

「化学の日」は、『人々の暮らしを支え、地球の未来を創る「化学」の魅力をもっと多くの方に知ってもらおう』ことを目的に制定されました。その日を10月23日とした背景には、誰もが一度は学んだ、また試験の前に必死に覚えたであろうアボガドロ定数から取ることでの覚えやすさがあります。また、アボガドロ定数が化学を学ぶ入口にあることから、「化学」の魅力伝えるための入口の象徴であると捉えることもできるように思います。

「化学の日」に関連したイベント

「化学の日」制定と同時に、上記の4団体によりキャンペーン事業「夢・化学-21」が企画され、様々なイベントが行なわれています (<http://www.kagaku21.net/>)。

【子ども化学実験ショー】 化学のふしぎを直接感じ取ることで理科好きな子どもを育てます。じつは、私たちの生活はいろんなところで「化学の力」に支えられています。身の回りにある「化学」のスゴさやオモシロさを、実験や工作を通じて楽しく学んで欲しい！そして、もっと化学に関心を持ってもらいたい！そんな願いをこめて企業と学校がタッグを組んで開催されているのが「子ども化学実験ショー」です。化学会社や団体、学校の先生など化学に携わっているグループがいろんなテーマで実験教室を出展します。

【なぜなに？かがく実験教室】 本実験教室は、化学の持つ不思議さを体験し「なぜそうなるのか」を考えることで化学への理解を深め、身の回りにある化学や化学製品に興味を持ってもらうことを目的として毎年開催しています。

面白い・楽しいという一回限りの体験にとどまるのではなく、“生活の中にある不思議”に継続的に興味を持つようになることに重点を置き、中学校や高校・大学の先生による本格的な直接指導のもと、小学校の授業ではなかなか体験できない化学の実験や工作・観察等を行います。

【化学グランプリ】 化学グランプリは、日本全国の高校生以下の皆さんの化学の実力を競い合う場として1999年より毎年開催されています。2019は7月15日(月・祝日)の海の日に全国の会場で一次選考(マークシート式試験)を実施され、その中の成績優秀者約80名が二次選考に進出します。二次選考は実験をともなう記述式試験で、合宿形式で行います。

総合得点の上位5名に大賞、以下、順位により金賞・銀賞・銅賞が授与されます。